

加賀百万石 文武の誉れ—歴史と継承—

重要文化財《雲龍蒔絵大小拵》前田利家所用 尾山神社蔵
—企画展「加賀百万石 文武の誉れ—歴史と継承—」より—

■ 前田家歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌鎧Ⅱ
【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 琳派コレクションⅡ—宗達・宗雪・光琳・乾山—【古美術】

■ 夏休み 親子で楽しむ美術館 はじめての工芸【近現代工芸】

■ ひとのからだ—身体をめぐる表現—【近現代絵画・彫刻】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 7月の企画展示室
- 学芸室の人々
- 〔企画展Topics〕 ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ
- 〔参加者募集〕 親子で楽しむ 夏休みの行事！
- 7月の行事予定

企画展(第7~9展示室)

加賀百万石 文武の誉れ—歴史と継承—

主催/石川県立美術館

後援/北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、北陸朝日放送

7月10日(土)~8月8日(日・祝) 会期中無休

本展は、文武に際立った加賀藩主・前田家所縁の刀剣、書跡、典籍などの国宝をはじめ、「百万石」の自負と気概のもとに、明治時代以降に石川県で収集された茶道美術の名品、そして高山右近ゆかりの地として、キリシタンの記憶を今日に伝える文化財もあわせて展示し、本県の文化的アイデンティティを歴史と継承の観点から広く発信するものです。
今回は、本展の章立てと、代表的な出品作品を紹介いたします。

第1章…武の誉れ

- ・国宝 《劍 銘吉光》 吉光 白山比咩神社蔵
- ・国宝 《刀 無銘正宗(名物 太郎作正宗)》 相州 正宗 前田育徳会蔵
- ・重文 《短刀 銘吉光(名物 前田藤四郎)》 吉光 前田育徳会蔵
- ・重文 《太刀 銘備前国長船住長光》 長光 白山比咩神社蔵
- ・刀(名物 北野江) 郷 義弘 東京国立博物館蔵
- ・重美 《刀絵図》 本阿弥光徳

第2章…文の誉れ

- ・国宝 《万葉集(金沢万葉)》 伝源俊頼 前田育徳会蔵
- ・国宝 《土佐日記》 藤原定家 前田育徳会蔵
- ・《古筆短冊手鑑》 第一、第三帖 宮内庁三の丸尚蔵館蔵
- ・重文 《古今和歌集 清輔本》
- ・重文 《天狗草紙 園城寺巻》
- ・重文 《色絵梅花図平水指》 野々村仁清

第3章…高山右近とキリシタンの記憶

- ・《高山右近書状》 本行寺蔵
- ・《前田利常書状 光高宛 二月二十一日》 前田育徳会蔵
- ・《聖母子像》 カトリック金沢教会蔵
- ・県文 《南蛮人渡来図》 本泉寺蔵

◆観覧料

- 一般…一〇〇〇円(八〇〇円)
 - 大学生…八〇〇円(六〇〇円)
 - 高校生以下…無料
- ※()内は六十五歳以上、及び二十名以上の団体料金。

◆関連行事

記念講演会「財団設立100年に向けて—前田育徳会の挑戦(仮)—」

日時…7月18日(日)13時30分~15時

講師…石田寛人氏(公益財団法人前田育徳会理事 長)

会場…当館ホール

*申込不要、聴講無料

土曜講座

①「加賀藩主・前田家の文武二道観」

②「加賀における高山右近とキリシタンの記憶」

日時…①7月17日(土)

②7月31日(土)

ともに13時30分~15時

講師…村瀬博春(本展担当学芸員)

会場…当館講義室

*申込不要、聴講無料

重要文化財《短刀 銘吉光(名物 前田藤四郎)》
前田育徳会所蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館
前田家歴代藩主の
甲冑・陣羽織と加賀象嵌鏡Ⅱ

7月10日(土)～8月8日(日・祝) 会期中無休

学芸員の眼

今回の展覧会では、高山右近に改めて着目しました。右近のキリスト教入信から江戸幕府の禁令による金沢追放に至る軌跡をたどると、「大航海時代」の潮流が見えてきます。ところで『加賀大乘寺史』は、石川県立美術館の敷地には一五九九年に一時大乘寺が移転したが、一六〇一年にこの地を高山右近が賜ったので、再度大乘寺は大乘寺坂の地に転地を命じられたと伝えられます。右近の居住地については異説もありますが、当館が右近ゆかりの地にあることに感慨を覚えます。

特集「前田家歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌鏡」では、前田育徳会から寄託中の十三点の加賀象嵌鏡のうち、十二点を紹介しています。これだけ一度に並ぶことは滅多にありません。この機会に是非ご覧ください。

鏡は、馬の背に載せる鞍くらに吊り下げて足の置き場とする道具です。頑丈な鉄でつくられますが、その表面に施されたさまざまな模様が目を引きまします。これは、鉄に金や銀といった異なる素材の金属を嵌め込む「象嵌」の技法で表されたもので、すべてオーダードメイドの一点ものです。金沢でつくられた加賀象嵌鏡は、江戸時代には実用品、贈答品として高い需要を誇りました。

模様は正面にあたる鳩胸はとむねとその両側の笑えみだけな

く、側面や舌裏したうらとよばれる底の部分にほどこされることもあります。今回展示する作品の模様だけでも、龍・千鳥・亀・兎といった生き物、牡丹・唐草・瓢箪・竹などの植物、障子・水引といった調度、紗綾形・籠目・葵花菱・花菱・角繫かづななど伝統的文様を挙げることができるよう、実に多彩です。また、紋板もんいたにつくられた窓のような紋板透もんいたすかしも、算木さんぎ・格子こうしだけでなく植物や鳥の形もあり、見所のひとつとなっています。

そして、紋板の側面、渡りの部分に彫られたのが「金沢住〇〇作」「加州住〇〇作」などの象嵌師の名前です。展示作品からは小さくて見づらいたが、江戸時代にどのような象嵌師が活躍していたかを伝えていきます。

近現代工芸(第5展示室)

夏休み 親子で楽しむ美術館 はじめての工芸

7月10日(土)~9月12日(日)

※ただし8月9日~11日は展示替えのため閉室

石川県立美術館では例年、夏休みの期間中に、「親子で楽しむ美術館」をコンセプトとした展示を行っています。今年度のテーマは、この秋に当地で開催される「国際北陸工芸サミット in 石川」にちなんで、「工芸」です。石川県は、江戸時代から工芸が盛んな土地として知られており、九谷焼、輪島塗、加賀友禅などの伝統工芸が今も息づき、現代においては多種多様な工芸が展開しています。当館にも多くの工芸作品が所蔵されており、全国的にも有数のコレクションを誇っていますが、いざ美術館で工芸を鑑賞する時、どう見てよいか分からないといったご意見をいただくこともあります。そこで本展示では、各種工芸の工程見本などを作品とあわせて展示し、また注目す

べき技法についても解説を加えることで、初めて工芸作品に触れる方にもわかりやすい展示とします。石川県の工芸について学ぶお子さんだけでなく、改めて工芸ってなに?という疑問を持つ大人の方にも、気軽にお楽しみいただける内容となっています。

関連行事(詳細は7ページにて)

- ・加賀友禅染め折りマスクづくり

日時 7月22日(木・祝)

- ・キッズ・プログラム体験講座「はじめてのうるし」

日時 7月28日(水) 13時30分~16時

- ・キッズ・プログラム鑑賞講座「はじめての工芸」

日時 8月18日(水) 10時30分~11時30分



二代徳田八十吉《長寿筋皿》

古美術(第2展示室)

琳派コレクションⅡ

—宗達・宗雪・光琳・乾山—

7月10日(土)~8月8日(日・祝) 会期中無休

第2展示室にて開催中の「琳派コレクション」は、7月4日にてI期が終了し、一部展示替えを行って7月10日(土)より新たな作品を紹介します。本号のダよりでは、喜多川相説の二点の作品についてご案内しましょう。

喜多川相説は、前号に紹介した俵屋宗雪没後の画房の中心人物と考えられています。同じく「伊年」印を用い、七十二歳以上の高齢になっても制作活動を行っていたこと、「法橋」に叙せられていたことなどがわかるものの、生没年は不明です。宗雪と相説はともに「そうせつ」と発音することから、かつては同一人物と考えられていたこともありますが、宗雪の作品が金地に洗練された構図で動植物を華やかに描いたものであるのに対し、相説は紙本に草花を散らし

た落ち着いた色彩の作品が主流です。代表作品のひとつであるI期で展示した《草花図屏風》(個人蔵)からも、その特徴がうかがえます。

石川県指定文化財の《秋草図屏風》は、すすき・芙蓉・萩・菊・女郎花・葉鶏頭などの秋草が、全体に円を描くようにリズムカルに配された作品です。輪郭線を描かない琳派特有の「たらし込み」が多用されています。「相説法橋」の署名、「宗雪」の朱白文方印、「伊年」朱文円印があります。

もう一点が、《芥子図小屏風》(個人蔵)です。相説としては珍しい金地の屏風で、満開の芥子の花が愛らしく描かれています。「法橋相説」の署名と「伊年」朱文円印が見えます。



石川県指定文化財《秋草図屏風》喜多川相説

優品選

7月10日(土)~8月8日(日・祝) 会期中無休

今回の優品選、テーマは夏。
日本画分野は、季節感と涼感が溢れる《白山図》を紹介します。作者は「白山の画家」と呼ばれた玉井敬泉。山頂付近の様子を、六曲一双のパノラマに仕立てた夏の白山です。高山植物が愛らしく咲き、敬泉の白山愛が溢れた作品です。そのほか、静けさが支配する夏のひとときを描いた平桜和正《静映》など、季節の優品をお楽しみください。

油彩分野からは、宮本三郎《熱叢夢》を紹介します。宮本は晩年、神話や聖書を主題に華麗な世界を展開し、本作では、白鳥に変身したゼウスがレダを誘惑するエピソードを描きました。何気ない姿勢のモデルは、画家とともに対峙しているような感情を誘います。宮本と一緒にモデルに向き合う感覚を味わって

みませんか。
彫刻分野では、矩幸成《しぶき》を展示します。少しうつむいた裸婦のポーズは、全身で流れるようなリズムを感じさせます。タイトルの通り、水しぶきを浴びている涼しげな様子や、夏のきらめく空気が伝わってきます。

脇田和の素描・版画分野から、夏にぴったりの作品を紹介します。「素描のための材料と方法はほとんど無限大にある」と脇田が述べているように、今回展示される《あせかき》と題される作品は、カラージュの技法を使って画家の構想力が自由に表現された作品です。素描の画面作りの喜びにあふれた、汗かきな人物の心と表情をご覧ください。



宮本三郎《熱叢夢》

ひとのからだ

—身体をめぐる表現—

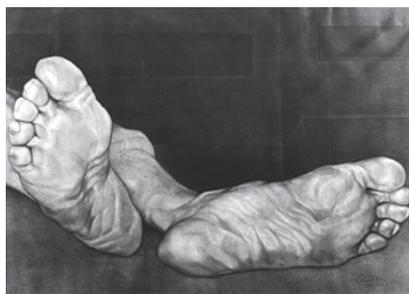
7月10日(土)~8月8日(日・祝) 会期中無休

絵画・彫刻における身体表現について、四つのテーマに分けて紹介する特集展示です。
はじめのテーマは「修練の基本としての身体」です。人体や裸婦は、作品制作の基礎訓練に欠かせない題材です。三方向から見た裸婦をあらわした高田博厚作品(版画)、彫刻のトルソ(頭と四肢を除いた胴体だけの人体)などを展示します。

「魅せる身体」では、運動やパフォーマンスをする人体を紹介します。躍動する肉体は美しいものです。バレリーナから着想を得たと思われる長谷川八十《踊る女》(彫刻)や、身体構造を正確に把握し制作した吉田三郎の《平均》(彫刻)、その弟子の木村珪二によるレリーフ《ハードル》(彫刻)などをお楽しみください。

「クローズアップ」というテーマが続きます。人体にはさまざまなかたち・動きのパーツが存在し、構造も複雑です。身体のある一部に焦点を当てた作品は表情豊かに目に移り、思わぬ美しさを顕します。布をまとった身体の浮遊感が印象的な長野祥三作品(油彩画)、衣服のみを配置することで描かれていない身体を想起させる、脇田和《くつした》(版画)などを紹介します。

最後の「想像力の広がり」では、身体を自由に解釈した作品が並びます。複数の人物か、一人の違う側面か。想像力を刺激される坂根克介《道化》(日本画)や、オブジェクトと人体が合わさったような長谷川大治郎《思考する人》(彫刻)を展示いたします。



木下晋《表情》

企画展Topics

ブダペスト国立工芸美術館名品展 ジャポニスムから アール・ヌーヴォーへ

8月15日(日)~9月12日(日) 会期中無休

19世紀後半、日本の文物がヨーロッパに流入したことで熱狂を巻き起こした「ジャポニスム」は、当時流行したアール・ヌーヴォー様式をはじめ、西洋の工芸品やデザインに大きな影響を与えました。

ハンガリー・ブダペストは古くからシルクロードの要衝として栄え、東西の文化が融合した都市であり、ブダペスト国立工芸美術館はその地域的な特性も相まって、一八七二年の開館当初から日本の優れた工芸品や日本の影響を色濃く受けた西洋の名品を積極的に収集することで、その変遷を示す貴重なコレクションを形成してきました。

本展は、国内外に向け本県の伝統工芸の魅力を広く発信する「国際北陸工芸サミット in 石川」の事業と

して、ブダペスト国立工芸美術館のコレクションの中から、ジャポニスムとアール・ヌーヴォーをテーマに、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟などの名品とともに、ジョルナイ陶磁器製造所などハンガリーを代表する作品群を含め、厳選した約一七〇点の名品をご紹介します。

日本の工芸は、西洋にどのような影響を与えたのか。西洋はどのように解釈し、新たな可能性を見出したのか。本展を通じ、工芸分野におけるジャポニスムに対する理解を深めていただくとともに、西洋に大きな衝撃と深い感銘を与えた日本そして本県の工芸が持つ、グローバルで普遍的な魅力を感じ取っていただければ幸いです。

ジョルナイ陶磁器製造所《竹文ティーセット》
1886年頃 ブダペスト国立工芸美術館蔵

第7展示室

第49回 北陸二紀展

6月30日(水)~7月4日(日) 会期中無休

二紀会は「類型化を排する。具象・非具象を論じない。創造的な個性の発現を尊重する。情実を排し新人を抜擢し、積極的に世に送る」の主張を掲げて昭和二十二年以来活動を続けています。

北陸二紀展(研究会)は北陸支部会員が、第七十四回二紀展に向けて制作した作品を展示いたします。世評を問い、二紀会委員の批評と指導を受けて作品の質の向上を図ります。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して実施いたしますので、この機会に是非ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

◇入場無料

◇後援／北國新聞社、テレビ金沢、北陸放送

◇連絡先／白山市田地町27 太田喜代司

電話・090-1896914080

学芸室の人々

前多 武志(学芸第一課長)

学芸活動全般に係る仕事をしています。展覧会からパソコンの配線まで、いわば雑芸課長です。担当分野は、近現代の純粹美術です。目下の目標は、机上を整理できる学芸員になることと、楽しく仕事ができる環境作りですが、どちらも至難です。

最近のこだわりは、切っ先が切れるように包丁を研ぐこと。これは、気力が充実している時にやります。あと南瓜を、ややねっとりとしながらホクホクとした食感に炊くことでしょうか。かなり難しいのですが、ほんの少し大きめの鍋を使うことが、成否の鍵を握っているのではないかと最近睨んでいます。

〔参加者募集〕

親子で楽しむ 夏休みの行事！

「工芸鑑賞+体験ワークショップ」
加賀友禅染め折りマスクづくり

*展示室で加賀友禅の作品を鑑賞したあと、友禅マスク作りに挑戦しよう！

日時：7月22日(木・祝) ①10時～ ②13時30分

対象：小中学生(定員各回10名) ※小学生は、保護者の方と一緒に参加ください

申込：076-2625-1371(県文化振興課)

料金：一〇〇〇円

「キッズ・プログラム体験講座」

はじめてのうるし

*「コレクシオン展」はじめての「工芸」を鑑賞したあとに、うるしの技法のひとつである時絵を、お皿に施す体験です。自分だけの、キラキラのお皿を完成させよう！

日時：7月28日(水) 13時30分～16時30分

対象：小学生 親子(定員10組)

申込：以下の内容を入力の上、メールでお申し込みください。

宛先：shibi@pref.fshikawa.lg.jp

件名：「はじめてのうるし」申込

本文：参加者全員の氏名・学年・電話番号

※申込締切は7月14日(水)です

※定員を上回った場合は抽選となります

料金：ひとり一〇〇〇円(予定)

「企画展」文武の誉れ「関連行事」

子どもツアー

*企画展のみどころや楽しみ方を、学芸員がわかりやすくお話しします。

日時：8月1日(日) 10時30分～11時

対象：小中学生(定員20名)

保護者の方と一緒に参加可能です。

料金：無料(保護者の方は、2人目から要観覧料)

参加無料、申込不要

「キッズ・プログラム鑑賞講座」

はじめての工芸

*「コレクシオン展」はじめての「工芸」を鑑賞します。学芸員と一緒に、ワークシートに挑戦しよう！

日時：8月18日(水) 10時30分～11時30分

対象：小学生親子(定員20名)

参加無料、申込不要

「子ども学芸員体験」

*美術館で働く学芸員になってみよう！美術館の裏側探検と作品解説づくりを体験できる機会です。

日時：8月4日(水) 13時30分～15時30分

対象：小学4・5・6年生 親子(定員10組) ※先着順

料金：無料

申込：以下の内容を入力の上、メールでお申し込みください。

宛先：shibi@pref.fshikawa.lg.jp

件名：「子ども学芸員体験」申込

本文：参加者全員の氏名・学年・電話番号

※申込締切は8月1日(日)です

7月の行事予定

<p>■企画展「加賀百万石 文武の誉れ ―歴史と継承―」関連行事 講演会</p> <p>13時30分～15時 美術館ホールにて 無料</p>	<p>18日(日)</p> <p>演題：「財団設立100年に向けて―前田育徳会の挑戦(仮)―」</p> <p>講師：石田寛人氏(公益財団法人前田育徳会理事長)</p>
<p>■土曜講座</p> <p>17日(土)</p> <p>「加賀藩主・前田家の文武二道観」</p> <p>13時30分～15時 美術館講義室にて 無料</p>	<p>24日(土)</p> <p>「仏像は語る③」</p> <p>副館長 谷口 出</p>
<p>31日(土)</p> <p>「加賀における高山右近とキリシタンの記憶」</p> <p>担当課長 村瀬博春</p>	<p>11日(日)</p> <p>「日本美術史 室町・桃山時代 南蛮美術(24分)」</p> <p>「シリーズ北陸の工芸作家 石川の匠たち【匠の技】(30分)」</p> <p>美術館ホールにて 無料</p>

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

会期：令和3年8月15日(日)～9月12日(日)

エミール・ガレ《洋蘭文花器》
1900年頃

ジョルナイ陶磁器製造所《葡萄新芽文花器》
1898-1899年

ミントン社《濃紫地金彩昆虫文蓋付飾壺》
1872年

ルイス・カンフォート・ティファニー
《植物文柱付香水瓶（化粧セットの一部）》
1913年頃

シャーンドル・アパーティ・アプト、
ジョルナイ陶磁器製造所
《狩りをする雌ライオン像》1908年

※すべてブダペスト国立工芸美術館蔵

次回の展覧会

令和3年8月12日(木)
～9月12日(日)
会期中無休

前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

近代の美術

古九谷と再興九谷 I

第4展示室

第5展示室

第3・6展示室

1F企画展示室

没後50年
木村珪二
【近現代彫刻】

夏休み親子で楽しむ美術館
はじめての工芸
【近現代工芸】

優品選
【近現代絵画・彫刻】

ブダペスト国立工芸美術館名品展
ジャポニスムから
アール・ヌーヴォーへ
8月15日[日]～9月12日[日]

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金

7月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

7月の休館日は
5日(月)～9日(金)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか？

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 検索

石川県立美術館だより
第453号(毎月発行)
2021年7月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。